



演奏会本番に向け合奏に取り組む団員ら(4月16日、盛岡市上田公民館)

盛岡シティ
ブラス

未来に響く吹奏楽

盛岡四高音楽部とも共演

5月4日
30周年定演

盛岡シティブラス(大村知正団長、団員35人)の第30回定期演奏会は5月4日、盛岡市民文化ホール(マリオス内、盛岡市盛岡駅西通2の9の1)大ホールで開かれる。第46回盛岡芸術祭吹奏楽部門。30回目の節目の演奏会とあり、かつて所属したOB・OGとの合同演奏、盛岡四高音楽部も出演する合唱と吹奏楽の共演ステージなど、多彩な内容で音楽を届ける。

盛岡シティブラスは1987年11月に、盛岡市を中心に吹奏楽を愛する社会人が集まって結成された。春の定期演奏会をはじめとする演奏会、吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストへの出場など、年間を通して活動している。全パートで団員募集中。

演奏会は3部構成。第1部は単独ステージで、2017年度全日本吹奏楽コンクール課題曲「アパラチアの春」(A・コープランド)を演奏。第2部はOB・OG合同ステージとなり、「アルメニアン・ダンス パートI」(A・リード)などを演奏する。第3部は合唱&吹奏楽ステージ。盛岡四高音楽部とともに「大地讃頌」(作詞/大木惇夫、作曲・編曲/佐藤真)をはじめ親しみやすい合唱曲を届ける。

指揮者の梅野真和さん(55)は「大地讃頌」はもともとオーケストラの曲。その吹奏楽版

を演奏するので、ピアノとは全く趣の違う伴奏になると思う。30回の重みを感じ、人とのつながり、音楽ができて平和やそれぞれの家族に感謝して演奏したい」と思いを語る。

大村団長(31)は「合唱との共演もあり、吹奏楽の枠を超えて音楽を楽しめる演奏会になる。配布するプログラムには歌詞カードも付ける予定で、皆さんと一緒に楽しみたい。30年の歴史と、これから続く新しいシティブラスを見せられると思

う」と話した。
午後2時開演(開場は同1時半)。チケットは中学生300円(当日500円)、一般500円(同700円)、小学生以下無料。川徳、おどつて、マリオスなどで購入できる。問い合わせは大村団長(電話090-7520-4575)まで。